

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	223うるおいある河川・水路の整備		
施策のねらい (めざす姿)	市民が水辺に親しみをもっています。 河川・水路等の整備が進み、市民が安心して生活できています。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	マネージャー氏名	萩原 勝

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所や手法の選定を行う。さらに、適正な維持管理を行うことで、既存ストックの能力を十分に発揮できるようにする。	③改革・改善内容	準用河川二和川の拡幅整備や雨水貯留池整備には、関係地権者の協力が必要である。また、雨水浸透施設や浸透柵の設置においても、開発事業者や市民の皆様の協力が必要であることから、治水対策の必要性を説明する。
②①に基づく取り組み結果	・準用河川二和川のバイパス整備及び拡幅区間の用地取得、準用河川二和川護岸改修、串崎新田貯留池の用地取得を行った。 ・流水阻害の要因となる河川や水路等の土砂やごみの撤去を実施し、施設の適正な維持管理を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	河川や水路、地域排水施設、雨水貯留池、雨水浸透柵	意図(対象をどうするのか)	施設の整備を行うとともに、適正に維持管理し、浸水被害を軽減する。
②施策の概要	河川や水路、地域排水施設、雨水貯留池、雨水浸透柵等の整備や適正な維持管理により、治水安全度を高め、市民が安心して暮らせるとともに、水辺に親しめる環境を創造する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川等の施設能力を超えるようになった。大雨に強いまちづくりへの市民要望が多い。今後、下流側の整備が進捗した地区では、将来形での整備が可能となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	・準用河川二和川バイパス整備工事、準用河川二和川護岸工事 ・中央二丁目、南初富二丁目、道野辺中央五丁目、東道野辺七丁目、鎌ヶ谷二丁目、鎌ヶ谷八丁目地区地域排水整備工事、雨水浸透柵設置モニター工事						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	浸水面積	ha	123.4	123.4	122.1	121.1
	ii	浸透柵設置個数	基	7,196	7,265	7,347	7,800
	iii						
③基本事業成果指標	i	貯留量	m ³	43,520	43,520	43,520	40,160
	ii	河川・水路に対する満足度(市民意識調査)	%	16.0	—	—	15.0
	iii						
	iv						
	v						
	vi						
	vii						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)	令和3年度予算			
事業費(千円)	523,088	612,110	(単位:円)	5,594 円	733,903		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の整備と維持管理のための財源確保や地権者の理解が必要である。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	浸水面積は減少したものの目標の達成に至らなかった。浸透柵設置については引続き啓発していく。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑拡充
②上記方向性の説明	浸水被害の大きい地区の被害軽減のため、早期に河川整備を計画的に進めていく必要がある。
③特に重点化する事務事業	準用河川整備事業